

北部厚生会館（北部生協）の建設

1977（昭和52）年に竣工した北部厚生会館は、現在の東山キャンパスの複合的な厚生施設では、学生会館に次ぐ歴史を持つ建物です。

戦後の名大は、「タコの足大学」とも言われるなど、キャンパスが各地に分散していましたが、1950年代後半から医学部以外の学部等の東山への集結が進み、1966年の農学部の移転によりそれが完了しました。1961年には、学生会館が建設され、ここには生協が経営する食堂、喫茶店、売店、書店、クリーニング店、理容店などがありました。

しかし、1964年に全ての1・2年生が属する教養部の移転が完了するなど、東山に通う学生数が急増する中、厚生施設の拡充を望む声が高まってきました。特に1972年に第二理科系食堂（現在のダイニングフォレスト）が建設された頃から、生協・学生団体を中心に、新しい学生会館の建設を目指す運動が本格的に行われ

るようになります。しかし、なかなか実現には至りませんでした。新学生会館に対する、大学側と生協・学生団体の考え方の対立もあったようです。

1975年になると、運動団体の連携を強化するため、5月に全学会・体育会・文サ連・生協の4団体が「北部厚生会館を築く会」を結成し、大学本部との交渉を行うようになりました。その結果、6月の評議会で、3階建3,570m²の会館の新築を次年度概算要求に盛り込むことが承認されました。11月からの署名運動では、僅か3週間に4,500名の署名が集まりました。

そして、この概算要求が一部認められ、1977年3月、2階建約2,000m²の北部厚生会館が完成したのです。同館は、当初「大学会館」あるいは「学生会館（新館）」とも呼ばれていましたが、やがて「北部厚生会館」が定着していきました。



- 1 竣工・開館祝賀会当日の北部厚生会館（1977年4月16日）。
- 2 1階の日用品売り場（1977年4月、写真3～5も同じ）。
- 3 1階の家電売り場。1階にはそのほか、書籍、レコード、衣類、靴、スポーツ用品、タイプライターなど、様々なものが販売されていた。
- 4 2階の食堂。
- 5 2階の「グリル喫茶」。2階にはそのほか、寿司コーナーがあった。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金ご支援のお願い

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延しており、健康医療は言うに及ばず、私たちの社会活動に広範かつ深刻な影響を及ぼしております。名古屋大学の学生への影響も甚大であり、学ぶ意欲をもちながらも困窮している学生の支援や、遠隔授業等の学習環境整備により、質の高い教育活動を維持するため、ご支援をお願いいたします。

Webでもご寄附を受け付けております。



<https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000>

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>

